

近代の建築家から バトンを受け継ぐ

有名建築家の作品をリノベーションする

近代の有名建築家が手がけた作品を 創造的に作りかえる可能性

名作と呼ばれる建築を、未来に継承するために何ができるだろうか？文化財的に「オーセンティシティ」を重視し、オリジナルの姿を頑として守り続けることだけが、名建築の未来への継承なのだろうか？

文化財のルールに基づいて、ある種のhistorical factとして守り続けることが、その建築にとっても社会にとっても幸せなケースがあることは確かである。しかしながら、社会の変化に応じて、プログラムや設備を更新し（用）、耐震補強して（強）、建築を美しく再整備（美）させながら歴史的な建物を更新・活用していく際に、文化財のルールだけに頼ることは、歴史的建築と建築家のポテンシャルの双方を、矮小化させるばかりではないだろうか？

「リノベーション」を理論化する

本課題の狙いのひとつは、理論不在と言われる現代建築の状況のなかで、リノベーションと呼ばれる建築行為を理論化することである。歴史的な建物を対象とすると、どうしてもオーセンティシティのモラリティが立ち現れ、最小限介入の設計に陥りがちである。本課題においては、歴史的建築のリノベーションに関する過去の議論の researched に基づき、自ら理論武装したうえで、歴史性の継承と大胆で創造的な再利用を両立させるデザインを模索してほしい。

対象とする建築家／建築作品

初回ガイダンスで、対象とする建築物のリストを配布する。

スタジオの進め方

設計と並行して、議論を巻き起こした有名建築のリノベーションについて、どのような議論がなされたのかをリサーチする。

エスキス

毎週火曜日、13:00～

多目的演習室にて

指導メンバー

加藤耕一

TA：山田理香子・常松祐介

ゲスト建築家によるレクチャー

参考文献

- ▶ 加藤耕一『時がつくる建築
リノベーションの西洋建築
史』（東京大学出版会、
2017年）
- ▶ 『新建築』2018年4月号
- ▶ IO+Iwebsite 2017年6月号
（特集 時間のなかの建築、
時間がつくる建築）